



毎日新聞夕刊連載コラム

「異文化を学ぶ」をもっと学ぼう！

●みんなく公開講演会

「日本で暮らす—移民の知恵と活力」

日本のまちで、外国から来た人びとの存在はたいへん身近になりました。わたしたちはマスメディアを通して世界の情報を知りますが、日常生活では、彼らを通して世界とつながっているとさえいえます。彼らの活力に満ちた生活を紹介します。日本に暮らす外国の人びとからみたら、日本のまちがどう見えるか、考えてみましょう。



講演者：南 真人(民族社会研究部助教授)

「ネパール人労働者の素顔」

陳 天璽(先端人類科学研究部助教授)

「チャイナタウン—変容とバイタリティー」

司会：庄司 博史(民族社会研究部教授)

日時：3月2日(金) 18:30～20:30(開場17:30)

場所：オーバルホール

大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞ビルB1

定員：400名(参加無料)

主催：国立民族学博物館／毎日新聞社

【申込方法】「3月2日講演会参加希望」と明記のうえ、1)郵便番号、2)住所、3)氏名、4)連絡先電話番号を記載し、ハガキ、FAX、メールにてお申し込みください。2名様以上でお申し込みの場合は、それぞれの1)～4)を必ず明記してください。なお、応募者が多数の場合はご参加いただけない場合もあります。2月中旬に参加証を発送する予定しております。当日は手話通訳もごさいいます。
※参加申し込みをいただいた方の個人情報は、参加証の発送、および次回以降の講演会の案内のみに使用いたします。

【宛先】〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
FAX 06-6878-8479 メールアドレスkoenkai@idc.minpaku.ac.jp

【問合せ先】国立民族学博物館 研究協力課研究協力係
TEL 06-6878-8209

編集後記

残念ながら紙面の都合上、「フィールドで考える」欄の家屋の実測図をあれ以上大きく掲載できなかったが、近年の民族学・文化人類学では、ああいふモノの記述より、事象の分析への関心の方が高い。多くの文化人類学者は、日常的な慣習や行為が意識的、無意識的に繰り返されるメカニズム、またそこから変化がどのように生じるのかに関心を寄せている。わたしの解釈では、今回の特集「災害」も、その応用問題だ。つまり、突然にして社会の枠組みが崩れ、それまで自明であったはずの日常の秩序が脅かされたとき、われわれがどのように新しい日常を作り直すのか。そのとき各人の身についた「文化」がどのように立ち回り、あるいはどのように文化が刷新されるのか。こういった関心が根底にある。

これも私見だが、不幸にも災害が起きたとき、風評被害を含む二次的の災害を最小限に食い止め、早急な秩序回復がなされるためには、人びとが自分たちの地域や歴史に自信と誇りと愛着をもっていることも条件のひとつではないか。ともあれ、せめて自分の学問が、「縁」深い人びとのどういった部分に貢献できるのか、自覚して研究を深めていきたい。(櫻永真佐夫)

月刊



次号予告／3月号特集
ツーリズム

2007年2月号

第31巻第2号通巻第353号
2007年2月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話06-6876-2151

発行人 朝倉敏夫

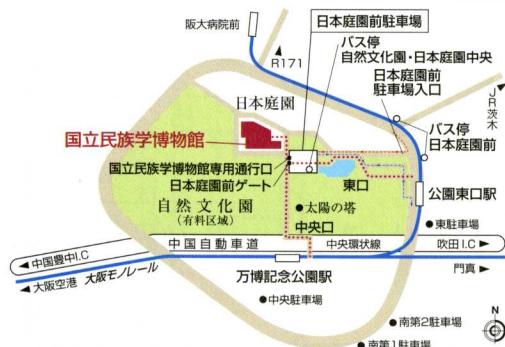
編集委員 池谷和信(編集長) 櫻永真佐夫
川口幸也 庄司博史 山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

●本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます



交通案内

■大阪・千里万博記念公園内 ●大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。 ●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。 ●自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。 ●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。